

今週の
みことば

「思い直される神様」

(ヨナ書 3 章 1 節～10 節)

「神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らに下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった」(3:10)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○「主は魚に命じ、ヨナを陸地に吐き出させた」という言葉で2章は終わっていました。そして3章の初めの所で、神様は再びヨナをニネベに遣わそうとされます。神様は、なぜこんなにヨナにこだわられるのでしょうか。私たちも時々経験します。自分にいったん背を向けた人を、再び振り向かせるのはなんと難しいことかと。しかし、神様はヨナを海の上まで追いかけ、強引ともいえる方法でヨナを振り向かせておられます。おそらく、神様の選びとは、そういうものなのかも知れません。考えてみれば嬉しい気持ちになるのは、私だけでしょうか。だって神様があなたを離さないと言って、私たちをつかんで離さないというのですから。救いの確かさはどこにあるか、と問う人がいます。私たちの中にはなく神様の愛にあります。私たちは日々、神様の愛によって救いの確かさを与えられ、信仰を養われていることを感謝していきたいものです。

○ニネベに来たヨナは「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる」と叫んで回ったといいます。これ、原語ではたった5文字です。おそらく最も短く、慰めも救いもなく、滅びと猶予期間を伝えるだけの託宣。外国の町にいきなり行ってこんなことを語るなんて、ヨナも辛かったはず。もし彼に「悔い改めるなら救われる」とつけ足す愛があったなら、少しは気が楽だったでしょう。でも、彼は何も足していません。おそらく彼は悪名高いニネベの町を救いたいと思っていなかったようです。伝道するためには、愛がなくてはなりません。少なくともニネベの町を愛させてください、ニネベの町の人々を愛させてくださいという祈りがなくてはなりません。でもヨナの心にはニネベの人々への愛が無かった。彼らが悔い改めるはずがないと高をくくっていたのです。

○でも、奇跡が起こりました。人々は裁きの言葉を聞いて、一斉に悔い改めたのです。彼らは人間ヨナの言葉を恐れたものではありません。ヨナを通して語られた神様の言葉を恐れたのです。彼らは異邦人でしたが、創造主の言葉を聴く耳を持っていたのです。10節に「神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで神は彼らに下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった」とあります。旧約聖書が描く神様は四角四面で融通が利かないと思われがちですが、そうでもありません。滅びのプログラムを救いのプログラムへと思い直されるお方でもあります。「思い直される」のは、愛があるからです。愛するために我が身を削り、ご自分の土俵を1歩も2歩も譲ってください。私たちの神様は、悪に対しては激しくお怒りになりますが、しかし人に対しては寛容と赦しをもって接してくださるのであります。